



# 「気候変動アクション日本サミット2022」

～佐川急便の脱炭素に向けた取組み～



佐川急便株式会社  
CSR推進部 CSR推進担当部長  
山根 紀子

# 佐川急便 環境活動年表

自社保有車両台数※

26,742台

従業員数※

56,206名

拠点数※

873拠点

宅配便個数※

約14億個

(※2022年3月期現在)

(2007) 館内物流システムサービス開始

(2007) 高尾100年の森 森林保全活動開始

(2004) サービスセンター展開

(2004) スーパーレールカーゴ運行開始

(2003) WWFクライメート・セイバーズ・プログラム参加

(2003) 環境行動制定

(2003) ECO車体導入

(2003) 太陽光発電システム導入

(2002) ペットボトルユニフォーム採用

(1999) 自家用天然ガススタンド設置

(1997) アイドリングストップ開始

(1997) 天然ガス自動車 10台導入

(1997) エコプロジェクト推進委員会 発足

1997年

2000年

2005年

2010年

2015年

2020年

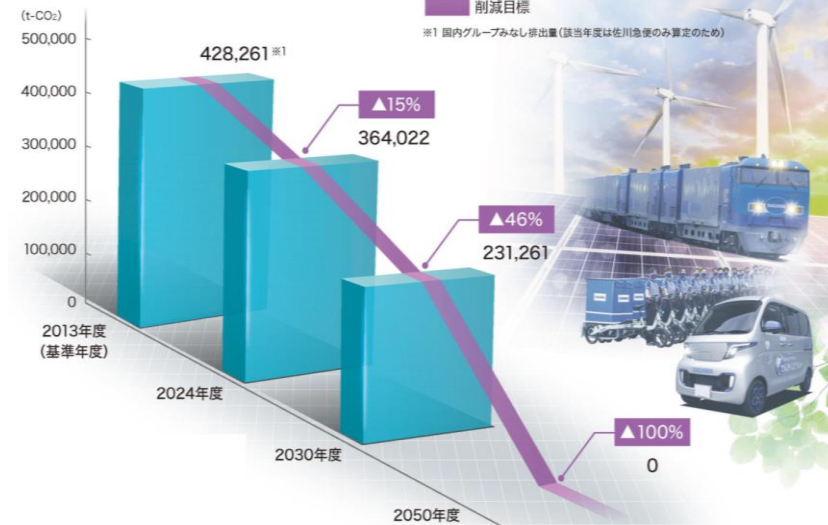
環境負荷低減に向けた取組み

運び方の改革・効率化

脱炭素に向けて

(2021) Xフロンティア本格稼働  
 (2021) 再エネ電力導入  
 (2020) TRIKE CARGO導入  
 (2020) 電気軽自動車共同開発開始  
 (2017) 貨客混載輸送開始  
 (2016) ハイブリッドトラック本格導入開始  
 (2014) 事業用電気軽自動車 7台導入

カーボンニュートラルに向けて



## 「環境対応車」の導入

### ① 環境対応車保有台数



ハイブリッドトラック

天然ガストラック

● 保有車両内訳(国内) ※2022年3月末時点	
● EV(電気自動車)	18 台
● 天然ガス	1,422 台
● ハイブリッド	2,767 台
● クリーンディーゼル	11,592 台
● その他	10,943 台

計 26,742台 (環境対応車 15,799台)

### ② バイオガス燃料の活用

東神戸営業所の天然ガストラックが、神戸市の下水処理施設に集めた汚泥から発生した消化ガスを精製したバイオガスを使用。



### ③ 電気自動車の導入

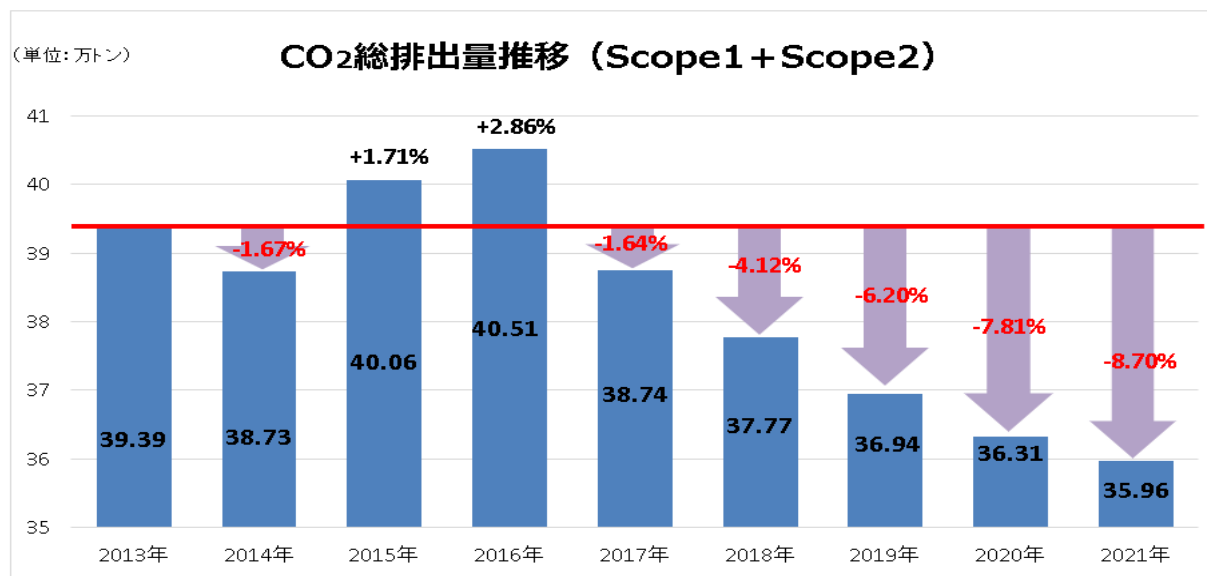
<2019年～>

- ✓ いすゞ自動車様と共同試験として、東京エリアで2台の小型電気トラックを実証試験中。



<2021年4月>

- ✓ 小型電気自動車のプロトタイプを公開。全ての軽自動車(約7,000台)を電気自動車にしていく計画を発表。

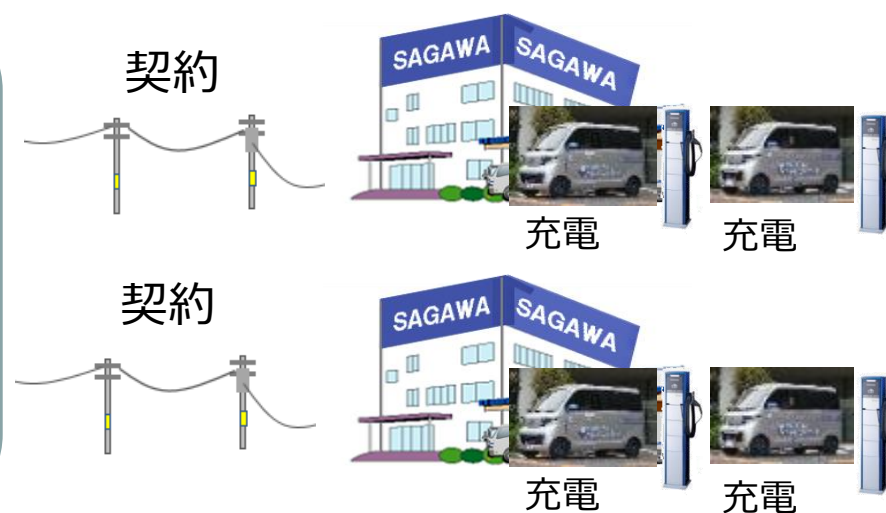


## 再生可能エネルギー電力の使用

### 使用する電力のCO2フリー化

これまでに電力使用量の多い20拠点を再生可能エネルギー由来の電力へ切り替え。

全国使用量の約30%がCO2フリー電力へ。今後、対象拠点を更に拡大する予定。



### 物流施設への太陽光パネルの設置

太陽光パネル設置  
約 **120** 施設



「SGリアルティ和光」  
**862.38kWの発電能力**

**年間約405トンのCO2削減**

物流ソリューション創造企業

